

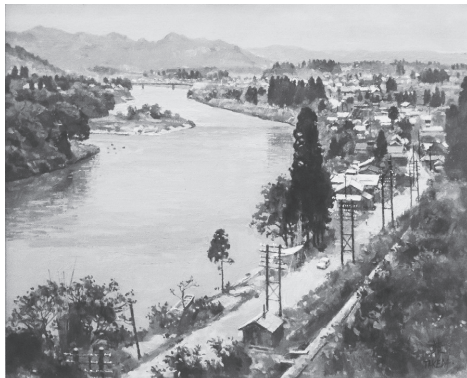
別冊

おいしいだものがたり

～資料館資料編～ ■企画展「武田靖夫展」より

現在資料館では企画展「武田靖夫展」を開催中です。武田靖夫氏は昭和13年(1938)東根市生まれの洋画家で、主に具象絵画の団体・示現会で活躍されました。日展等にも出品しており、現在は県美展の委嘱作家として山形県内の美術振興に努められています。

今回の企画では、武田氏が大石田町内の最上川を描いた作品を多数展示していますが、中でも150号(縦106cm×横228cm)のダイナミックな作品群が目を引きまします。このような大型の作品であっても高い技術で細部まで緻密に描かれることで写実性が失われず、実際に開けた場所で絶景を目にしているかのようです。また、大小どの作品も色の用い方が秀逸です。色彩間のコントラストを無理なく引き出し、普段から見慣れている最上川の景色を新鮮なものにしています。特に夕暮れを描いた作品では青空と夕焼け空が溶けて混ざり合う幻想的なグラデーションと、それを映す川面といった一瞬の美しさがよく表現されています。今回はそんな武田氏の作品の中から、『初夏の最上川』をご紹介します。



『初夏の最上川』はF 8号(38cm×46cm)と今回の展示の中では小品といえるサイズで、虹ヶ丘から大橋方面を高い視点から描いた作品です。虹ヶ丘は歌人・斎藤茂吉以降多くの文人墨客が訪れては各々の作品にしてきた場所であり、特に公園として整備されてからは格好の写生地として多くの画家に親しまれてきました。そのため同様の構図で描かれた作品を数多く目にしたことがあるのではないのでしょうか。その中にある本作品には一種変わった趣があります。それはこの作品が昭和30年代(1960頃)に描かれていることに関係しているのかもしれません。

ここには最上川の側まで迫る家並や雑木林など、特殊堤が築かれる以前の姿が写し取られています。他にも虹ヶ丘下の旧トンネルをくぐる線路や近年の浚渫で取り除かれた中州、遮蔽物無く見える大橋など、現在では見られなくなったモチーフに溢れています。これらの要素が夏独特の纏わりつくような湿気や、太陽に焼かれた土の匂いすらも感じさせるリアリティを持って表されています。それにより単に昔の風景を描いただけに留まらない、臨場感とノスタルジーが交差する不思議な感慨を生み出しているのです。

『初夏の最上川』が描かれたのは武田氏の青年期であり、画壇に認められ始めた時期とも重なります。デッサン力や色使いのセンスに卓越したものが感じられるものの、平成以降の作品に見える円熟味はまだ見られません。しかしその若さが勢いとなって「初夏」というテーマとリンクし、爽やかな風が吹く夏の光を感じられる作品です。(大石田町歴史民俗資料館 大谷)



大石田町公式アカウント開設

LINEははじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

**友だち登録を
お願いします!**

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和8年7月1日現在

世帯数	2,183戸	(-2)
総人口	5,661人	(-15)
男	2,825人	(-7)
女	2,836人	(-8)

(6月中の異動)

出生	1人	転入	2人
死亡	6人	転出	12人

※この人数は外国人も含めたものです。